

# 第三者意見

## + 第三者意見



関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授・博士(法学)  
日本経営倫理学会 常任理事  
一般社団法人 経営倫理実践研究センター 上席研究員  
**高野 一彦**

### 1. タクマグループのCSR経営の特長

タクマグループは、プラントを中心にわが国の産業の基盤をささえる重要な事業を行っており、社会から事業継続を強く求められていると思う。私は、コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスなど、企業における持続可能性(sustainability)の基盤となる各種マネジメント体制を専門領域としてCSR研究を行っている。そのような立場から「タクマ CSR報告書2018」を拝読し、特長を以下に紹介したい。

第一は、コーポレート・ガバナンスである。同社は2016年6月の定時株主総会をもって、改正会社法で新設された監査等委員会設置会社への移行を行うとともに、人事・報酬諮問委員会を任意に設置した。これは取締役会の監視機能を高め、自由闊達な議論ができるように、ということを意図した機関設計であると思われ、先駆的である。

第二は、コンプライアンス体制である。同社は、「コンプライアンス・CSR推進機構」を設置し、重要リスクについてグループ全体でPDCAサイクルをまわしている。コンプライアンス・CSR推進員が所属する部署の教育・啓発を行い、定期的に機構に進捗報告を行っている。グループにおいては、タクマグループ コンプライアンス・CSR推進連絡会を通じて、従業員教育などの啓発活動を行っている。特に独占禁止法、輸出管理、ハラスメントなどを重要リスクと捉え、頻度の高い従業員教育を行うことによって、浸透を図ろうとしている様子がよくわかる。

第三は、コンプライアンス・CSRの浸透度の把握と改善のサイクルである。同社は、2008年からCSR意識調査を始め、2013年からはグループ会社にその対象を拡大している。コンプライアンス・CSR教育の浸透度を経年で定量的に把握することで、施策の改善を図っている。

タクマグループのCSR活動の特長は、豊富な従業員教育とコミュニケーションにあると思う。従業員の意識が向上し、風通しの良い社風を醸成できれば、企業が抱えるほとんどのリスクに対応できると思われる。今後もこのような活動を継続して欲しいと思う。

### 2. さらなる発展への期待

現在、南海トラフ地震などの広域複合災害の発生が予測されている。タクマグループでは、このような災害に対応するために、事業継続計画(BCP)を策定している。今後は、定期的にクライシス・シミュレーション・トレーニングを行い、策定したBCPを運用し、うまくいかないところを改善すると、さらにBCPの実効性が高くなると思う。

また、タクマグループ第12次中期経営計画によると、海外での事業展開を積極的に進める内容になっている。海外においては、データ保護、贈賄禁止、競争法などの各分野で多額の制裁金・罰金、そして域外適用を規定する法制度があり、グローバル企業における重要リスクとなっている。充実した従業員教育に、これらのテーマを加えることで、今後の事業発展に対応した強い組織に昇華すると思う。

タクマグループは、現時点でとても高いレベルのコンプライアンス・CSR活動を行っていると思う。今後、事業の拡大や社会の変化に対応したコンプライアンス・CSR活動を探求することで、企業における持続可能性を高め、益々発展されることを期待している。

## + 第三者意見を受けて



取締役 執行役員  
コンプライアンス・CSR 推進本部長  
兼 コーポレート・サービス本部長  
**田中 康二**

当社の「CSR報告書2018」の発行にあたりまして、関西大学教授の高野一彦様より貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

本書は、タクマグループが社会課題の解決と企業価値の向上を図り持続的な成長を実現するために取り組んでいるさまざまな活動と、本年度から始めました当社グループの第12次中期経営計画をステークホルダーの皆さまにご理解いただくため、関係者の声を中心にわかりやすい解説に努めました。

「1.タクマグループのCSR経営の特長」では、当社グループのCSR経営の取り組みについて評価を頂きまして感謝申し上げます。『築城十年、落城一日』、依然、組織の信用・信頼を毀損するような不祥事が後を絶ちません。「コーポレート・ガバナンス」「リスクマネジメント」「コンプライアンス」は、健全な企業活動を行ううえで、なくてはならない経営の土台となるものです。今後も、ステークホルダーからの期待、要請に応えるため、また、当社グループの持続的な成長を実現するため、危機感を持って、これらの取り組みを進めてまいります。

また、「2.さらなる発展への期待」においても、事業継続計画(BCP)の充実、グローバルビジネスにおける重要リスクへの対応について貴重なご意見を頂きました。ESGやSDGsに対する視点も持ち、将来の環境変化に対応し得る強靱な事業基盤、経営基盤の構築を目指してまいります。

今回、ご指摘いただいた内容を真摯に受けとめ、CSR経営の推進とCSR報告書の充実を図ってまいりますので、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

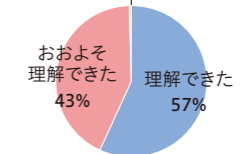
- **編集方針**  
「CSR報告書」とし、当社のCSR活動を記載しました。
- **発行者およびお問い合わせ先**  
株式会社タクマ  
コンプライアンス・CSR推進本部 CSR部  
TEL(06)6483-2673  
FAX(06)6483-2620

- **対象期間**  
原則として2017年(平成29年)4月1日から2018年(平成30年)3月31日までです。一部2018年度の活動内容を含んでいます。
- **対象範囲**  
原則として株式会社タクマおよび関係会社を対象としています。
- **発行時期**  
今回発行 2018年(平成30年)7月  
次回発行 2019年(平成31年)7月予定  
前回発行 2017年(平成29年)7月

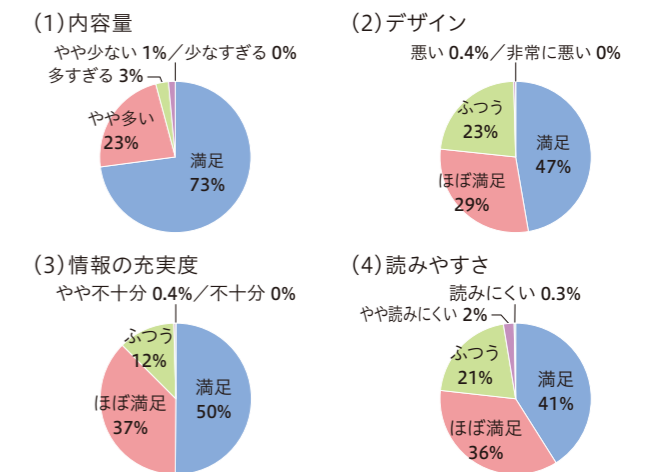
### 「タクマ 会社案内 CSR報告書2017」アンケート結果

調査期間:2017年7月~2018年6月  
回答者数:961名

**Q1** 当社の活動についてご理解いただけましたでしょうか。  
あまり理解できない 0.4% / 理解できない 0%



**Q2** 本書に対する満足度はいかがでしょうか。



**Q3** どの項目に興味をもたれましたか。(複数回答3つまで)

